

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）：【地域別】西砂学習館【概要】

令和2年11月8日（日）

10時30分～11時30分

場所 西砂学習館

1 開会の挨拶

（市長）

おはようございます。市長の清水でございます。

この場所は、昔は中学校がありました。砂川中学校分校がここにあったのです。その後五中に統合されていますけれども、当時、砂川町は立川市とは合併しておりませんから、人口も2万人ぐらいでした。今は立川全体で18万人です。

そういう中で、私は小学校・中学校を西砂で過ごしたのですが、最後、中学を卒業するときには、私のクラスは男子7名・女子12名、合計19名で、中学校を卒業しました。

ところが、今では、例えばここ数年で、人口の増加率が一番高いのは西砂町なのです。急ピッチで都市化が進んでおりまして、特に住宅の関係で、土地を求めて住宅を作るというケースが一番多いようでございます。

そんな中で、今までも注意をしながら行政に携わってまいりましたけれども、もっともっと、新しい市民が大勢増えてくる中で、市民との間での交流というのでしょうか、それらも頭に入れていかないと、まちづくりに失敗してしまうと、そのような意識を、今、私自身持っているところでございます。そのようなつもりで、これからも、行政を担ってまいりたいと考えております。

今日は大勢の方々にお集まりをいただいた中で、皆さん方からいろんなご意見を頂戴して、そして、安全で住みやすいまちを次世代へ向けてつくってまいりたい、と思っておりますので、ぜひ、皆さん方からも様々なアイデア等ございましたら、この席などを通じて教えていただければ、ありがたいと思っておりますのでございます。

どうぞよろしく願いいたします。

2 意見交換会

（参加者）

西砂町に住んでおります。今日お願いしたいのは、保証人制度のことです。これは、市議会でも取り上げられましたけれども、拝見したところ、前向きにその保証人制度を市として支援するという市長の回答はなかったもので、できればその点を再考していただく余地があれば大変ありがたいと思うんです。

保証人の件というのは、入居、入院、その他です。もちろん、市のほうで丸々保証人を請け負うというのはリスクが高いというのであれば、それなりの、きちっと納税証明書があるとか、一定の収入があるとか、そういう歯止めをもって臨めば、決して市に丸々負担をかけることはないと思います。市議会でも取り上げられましたが、今回、再度市長に直接お伺いしたいと思います。

（市長）

今、保証人制度というお話でございますけれども、議会の中で、一地方都市だけで保証

人制度を政策運用していくのには、少し力が足りなさ過ぎると、ご答弁した記憶がございます。詳細については、担当から答弁させていただきます。

(総合政策部長)

保証人制度ということで、入院の際ということですか。

(参加者)

入院ではなく入居ですね。住宅公団等は、保証人不要・更新料不要、そういうことを言っておりますけれども、他の都営・市営住宅の入居のときは、恐らく保証人が必要だと思うんですが。民間の賃貸では、当然、保証人が要求されます。

(総合政策部長)

民間の賃貸住宅では、確かにそういう形になっていると思います。

(参加者)

そうです。だから、マンションを借りるといった場合に、保証人ということで、私自身も、現役時代は人様の就職やその他保証人になってあげたことも多々ありましたけれども、現在退職して、逆に自分がそういうことをお願いする立場になってみると、社会から見放されて、見捨てられたような感じであるため、それで、今回申し上げたわけです。

(総合政策部長)

確かに、今でも様々な制度の中で保証人を必要としているものがあるのは、ご発言のとおりでございます。例えば、市営住宅や都営住宅は保証人を必要としない流れになってきています。

あとはもう一つ、民間ですと保証協会に保証をお願いするという制度がございます。全ての面で公的機関が保証人になるというのは、なかなか難しいものがございますが、そういった、保証人に代わる制度、保証人が立てられない場合に、そういったものをお使いになるということも一つの手段だと思っています。

お答えとしては十分でないかもしれませんが、現状はそういうになっております。

以上です。

(参加者)

1点だけ、もし予算上、財政上の理由でご懸念がございましたら、例えば、東京都から、多摩・島しょ等には毎年助成金が出されておりますので、そういうのを活用するというのも一つの案かと思えます。

(総合政策部長)

確かにおっしゃられるとおり、東京都等からも様々な補助金、また、交付金という形で、市のほうに交付されております。市も財政がなかなか厳しい面もございますので、様々な制度の中で、東京都からのお金というのは活用させていただいています。

ただ、それでも、立川市は様々な福祉制度をはじめ、いろんな施策を実施しておりますので、現在そういったものに活用させていただいて、施策の優先順位を検討した中でお金を充てているのが現状でございます。

ただ、保証人の件がご意見としてこのタウンミーティングであったということは、また、今後の施策を考える一つの契機とさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

(参加者)

一番町に住んでおります。今日はたまたま読売新聞で学校のトイレの洋式化率が、立川市が都内で3番目で躍進したというのが載っていて、大変、市民としても誇りに思っています。下のほうは50%ぐらいで、立川は95%ぐらい洋式化しているということが載っていましたが、本当に一市民として大変誇りに思っております。

今、図書館の椅子が、固い昔の小学校の椅子のような木の椅子なんです。私も本が好きで、2～3時間読んだりすると、腰が痛くなっちゃって、医者に行くようになっちゃったんです。そうしたら、医者が言うには、固い椅子のせいだと言われたんです。

今、定年退職者がどんどん増えてきますので、まあ、学べば若いといわれておりますので、やっぱりこれからは教養をつけたり、本を読んだり、図書館を利用する機会が増えてくると思うんです。もう少し、周りの椅子だとかに、気を使っていただきたいなということと、前回、椅子が足りないと言ったら、折り畳み式の丸椅子を用意してくれたんです。大変ありがたいんですけど、入り口も開けっ放しなんです。せめて、自動ドアでもつけてもらって、中と外が仕切られるような雰囲気になれば、もっともっと落ち着いて本を読めるんじゃないかと思っているんです。

ぜひ、椅子だけはね。木の椅子で、どうしようもないんです。だから、私は布団を持って行って座っているんですけども。何とかしてもらいたいなということなんです。

以上です。

(総合政策部長)

ご意見ありがとうございました。今すぐに椅子を取り替えますというふうには、なかなかお答えできませんけれど、私のほうから、図書館を所管しています教育委員会に西砂学習館のタウンミーティングでご意見をいただいたことを話しておきます。西砂図書館の入り口に入って、左側のところですね。南側ですね。

(参加者)

窓側ですね。

(総合政策部長)

そういったご意見があったということで、お伝えします。確約はなかなかできませんけれど、そういったことがあって、良い環境で皆さん本を読みたいということでご意見があったということをお伝えさせていただきます。

以上でございます。

(参加者)

西砂町に住んでおります。西砂町に昭島駅南口の2番線から西砂町行きのバスが出ておりました。それが、今年のコロナ禍で、平日が今まで22本ありましたが、4本になりました。3時間か4時間おきなんです。

それで、皆さん、大変困っているんです。私も大変困っています。それから、市長さん宛てにお手紙も差し上げました。シティバスですか、立川の。その本数が出ていますので、そちらを利用するよということでお返事が来ました。でも、やっぱりそこまで行くにはちょっと、私もそうなんです、皆さん、もう、結構お年寄りの方もいますので、すごく大変なんです。

それで、もしできればですが、今まで平日22本ありましたが4本になりまして、せめ

て、平日を休日並み、土日並みの本数で運行していただければすごくありがたいです。大変、皆さん困っています。どうぞよろしく願いいたします。

(市長)

西武立川から、いわゆる西砂川方面を走っている路線は、22本出ているときもそうだったようですけれども、市内のバス停から1便に2人乗るか乗らないかぐらいなのです。昭島市が補助金238万円を拠出し、立川市が補助金800万円を拠出して、約1,000万円で運行していましたが、それでもほとんどお客がいない。それこそ、空気を運んでいるような状況になっている。

請け負っている立川バスも大赤字で、20本もとても運行できない状況なので、乗降客の状態を考えて、また協議をしていきたいと思っております。

今、4本以外のバスが全然出ていないということではなくて、似通ったルートを、くるりんバスが1時間に2本ぐらいいは出ています。バス停まで1キロもあるんじゃない話ですけれども、500メートル前後ということで、ご理解をいただければと思っております。

立川バスとは再三再四調整しておりますが、今回のこのコロナ禍では、他のバスも極めて乗車率が悪くなって、赤字に次ぐ赤字ですと。いずれにしましても、今後も継続して協議をしていきたいと思っております。

(参加者)

西砂町に住んでおります。くるりんバスは増えていますよね。それで、くるりんバスに関しても、なぜ立川だけ180円なのか。ほかの自治体のコミュニティバスはみんな100円ですよ。要するにシルバーバスというのは、お年寄りが元気で生活できるようにということで、何年前に始めたのかちょっと記憶にないんですけど、東京都で、お年寄りが交通費をそれほど気にしないで外へ出られるようにというのが、一番の根本の事業だったと思うんです。それを、まるっきり路線バスを使えないものにして、くるりんバスに乗せるという方法ですよ、このやり方は。

(市長)

いえ、路線バスが圧倒的に多いです。

(参加者)

路線バスじゃなくて、くるりんバスのほうが増えていますよ。

それで、市政というのは、住民をいかに生活しやすくするか考えるものだと思うんです。6月16日のダイヤ変更によって、すごく不便になったんですよ。

まだ自転車に乗れるからいいですけど、雨の日の自転車は危なくて乗れないですよ。だからバスを使うしかない。だったら、よっぽどせっぱ詰まらなきゃ外に出ない。そうしたら、やっぱり東京都の方針とは逆効果じゃないんでしょうか。

それで昭島方面のバスに関しても、西武立川からすごく出ているようですね。しょっちゅう西武立川の駅前までバスは待っているし、来ています。確かに昭島市に入ると、各駅停車ぐらいい乗客がいますけど。こっちは少ないですよ。それは百も承知ですけど、減らし方が極端ですよ。

病院にも時間が合わなくて行けないです。私、病院は大概立川なんですけれども、立川行きは5時台と7時台でしょう。それで、立川駅まで約30分はかかります。極端に早いんです。病院だって受付開始は9時でしょう。それで、土日は病院やっていませんから、その

辺をもう少し考慮した時刻表をちょっと考えてはいただけないでしょうかというのが希望でございます。

(企画政策課長)

おっしゃる趣旨は十分、私どもも理解しております。交通の基盤は路線バスといった考えに変わりございません。ただ、先ほど市長も申したように、今、路線バスの運営が非常に厳しい中では、市内全体を見回しましても、これまで1日数本走っていた路線が、現在、1本、2本に減少しているといった例もあります。

立川バスの運営側としては、路線を廃止にするのではなくて、何とか、本数を減らしてでも残したいといった考えなんです。私どもが地元の方に説明しているのは、運営側も大変なので、ぜひ皆さん、時間をやりくりできるのであれば、バスのダイヤに合わせて行動できるようなご努力もお願いしますと、そういうふうに申し上げています。

それからくるりんバスのご意見につきましては、これまで議会でも様々な議論をしてまいりました。180円といった料金につきましては、以前は100円でしたけれども、この180円というのは、路線バスの初乗り運賃に合わせた金額なのです。つまり、先ほど申したように、交通の基盤は路線バスであるということになると、市のコミュニティバスが路線バスのお客さんを奪ってはいけないといった考えが根底にあります。金額については、申し訳ありませんが、そういった考えで改定をしたということで、ご理解いただきたいと思ます。

それから、昭島につながるくるりんルートにつきましては、これまでは一番町のルートと西砂町のルートの2つに分かれていました。それを西武立川駅と昭島駅への発着を含めて一体的に皆さんに使っていただきたいということで、2台運行にして、1つの大きな路線に変えたのが今年の8月です。

路線バスは運営事業者側の収支、それから運転士の確保が厳しいといったこのご時世の中では、このような動きがまず一つあるということ。それから、コミュニティバスにつきましては、路線バスを補完するというので、これまで地域の方の声も聞きながら、何とか、路線を変えながら再編を繰り返してきて、今に至っているということです。

それこそ、地方の限界集落となりますと、本当にもう交通自体が破綻している現状もあるなか、決して立川は不便だとは思っておりません。鉄道・モノレール・バスを含めて、他の都市に比べても引けを取らない便利さはあると考えております。ただ、今までとは使い方が変わってきたとか、今までよりもちょっと不便になったというのはあります。そこは、ぜひ、少しでも日常の行動を変えていただくといったところでご協力いただきたいと、そういった考えでございます。

以上です。

(参加者)

一番町から来ました。コミュニティバスの運行や路線バスの運行も、市民の人が移動をしやすいうように整えてもらうのが大切な、大事ななと思っていて、いろいろ事情があるとはお察ししますが、それよりももっと大事なのが、市民の人がちょっとした用事でも、雨の日でも、困らないで躊躇なく移動できることが大切かなと思います。

立川バスへの思いやりのこともございますけれど、でも、みんなのことを考えてやることも、結局は立川バスにもくるりんバスにもメリットがゆくゆく出てくるかなと思います。

今、そういうふうに努力してくださいと言われて、努力できる人もいると思うんですけど、もういいやって、こんなの180円も出してまで移動しないとか、利用しない方も出て、私も100円ときはくるりんバスを利用していたんですけど、コロナでもう利用しなくなりました。

結局は、デメリットになってしまうと思うので、その辺は、時刻表を見直したりとか、今後変えることで、より良いバスの動きになると思います。

以上です。

(企画政策課長)

ご指摘の点は、路線バスを含めた交通ネットワークを今後どう充実させるかといった課題だと思います。ただし、どんなに交通網を充実させても、ご自身の体が動かなくなると、いくら近くにバス停があっても不便だと思う方もいらっしゃると思います。そういった意味では公共交通の限界もあるのかなと。これからは、地域福祉や福祉圏域といった観点から、今後、地域における移動の確保をどう展望したらいいだろうかといった点が重要になると思います。例えば、近所の方たちで助け合って病院や買い物に行こうとか、そういった身近な移動の問題もふくめて、「交通」と「移動」の両面の視点から、それぞれ、地域、事業者、市の役割をどう考えるのかといったところがありますので、そこは現在市内で検討を進めております。今日のご意見は持ち帰らせていただきたいと思っています。

以上です。

(参加者)

西砂町に住んでおります。民生委員をやっております。

やはり皆様から今のようなお声を聞いて、ちょっとコロナ禍で団体の運営を聞きに行ったりが難しかったので、最近ちょっと調べ始めたところなんですけれども。

私自身は70歳なんですけど、まだ車を使っていて、バスを利用していないので本当申し訳なく思ったんですけど、皆さんから相談を受ける前まで状況が全然分からない状態でした。それで、なぜ私たちがこうやって問題提起をしているかといいますと、西武立川の前にスーパーがあります。西砂町2丁目と3丁目の方はそこに買い物に行っているんです。唯一の手段がバスだったんです。それが平日4本になってしまうと使えないんですよ。4時間も空いたら、買い物して、あと何をする場所がありますか。そんな環境なんですよ。

くるりんバスも五日市街道は通るんです。西砂町の2丁目と3丁目は通っていないんです。住民の方が、ちょうど真ん中に横に走っている道にくるりんバスを通してくれないかと、要望をされたそうなんです。ところが、くるりんバスはサイズが大きいですよ。「道が狭いところで、交差できないところは通すことができない。」と言われてたそうなんです。だったら、9人乗りとかハイエースクラスの車を導入してやっていただけないのかなと思います。

高齢者に優しくないなと、私は思っているんです。なぜかと言いますと、2丁目は高齢化が激しいんです。それで、お子さん方はみんな出ちゃっています。我が家もそうです。70歳の私が一番若いんです。主人が72歳、母が93歳です。母は自活しています。二世帯で暮らしていますので、買い物も行ってたんですね。でも、今はバスがないから、もう本当に行きようがなく、私が暇なときは「一緒に行こうね」って連れて行ってあげられるんですけど、片道だけ連れて行って、帰りはタクシーという感じで買い物をしたりしているんです。

高齢者も収入はいろいろです。特に独り暮らしの方は、私も国民年金だから老後が心配なんですけれど、国民年金で生活している方々、介護保険料を引かれて、光熱費を払ったりしたら、タクシー代なんか出せないんですよ。買い物に行くにも大変です。そんな地域に私たちは住んでいるんです。

皆さん方は市の中心でお仕事をされて、もう皆さんある程度交通機関も潤っていると思います。同じ住民税を払っていて、何でこんなに差があるのかと思っています。私は日頃からチベットの方には申し訳ないんですけども、「西砂はチベットだ」って言っているんですね。何十年も前から言っています。高齢化が進んでいるので、ぜひもっと考えて、もっとスピーディーにやってほしいと思うんです。

私もネットで調べて、全て調べきったわけじゃないんですけど、大阪府の堺市にお出かけ応援制度というのがあって、これは、市内の路線バス・電車が利用できるカードなんです。1乗車100円で利用できて、年間240日使えるんです。それって大きくないですか。それで、65歳以上で、費用はカード発行時のみ1,000円かかるだけで、更新はないんです。

でも、シルバーパスは更新料を払いますね、たしか。収入によって高い方もいますけど、非課税の方はたしか1,000円払っております。でも、こちらでしたら、カード発行のみの1,000円なんです。

この制度を立川市でも扱っていただければ、もっともっと違うんじゃないかな。これはコミュニティバスも使えるんです。「立川市は、くるりんバスが180円もするのに、シルバーパスが使えない」って、うちの母は嘆いて、「もういらぬかなシルバーパス」なんていうぐらいの西砂町の状況です。

やはり、何か提案するにしても、スピーディーに考えていただきたい。お年寄りはどうどん、どんどん、年々老いていっています。自分の生活が本当に大変なんです。やはり、もっとスピーディーにアイデアを出し、計画を立てて、何年越しの計画っていうより、1年が大事なんです。お願いしたいと思います。

(市長)

いろいろ、今、ご意見をいただいておりますけれども、いただいたご意見を総合的に判断して、いろいろな政策に役立てていきたいと思っております。

西砂町は西砂町でいろいろな悩みがございますし、駅の周辺は駅の周辺で混雑による安全の面等の問題があり、非常に大きな課題となっております。

安全で、安心して生活のできる地域を作るための様々な知恵を働かせていかなければいけないと思っておりますので、いただきましたご意見、今後の行政の中でどう実現ができるかという、糧にさせていただきたいと思っております。

(参加者)

一番町の6丁目から来ました。今日は、何か意見があつて来たわけではなくて、聞くと何か行政とつながれるのかという観点で来ました。

行政とつながっていない感覚なんです、生活していて。立川市に来て33年になりますけれども、生活環境は来たときよりも悪くなっています。

それはなぜかという、まず、さっきおっしゃっていた、バスの運行時間ですね。例えば、さっきもおっしゃっていたように、買い物はほとんど立川市のお店じゃなく、武蔵村

山市とか昭島市に行くんです。ここら辺の人たち、というか私も、立川駅のほうに行くときには、何て言うかという、「立川に行ってくるね」です。私たち、立川の住民なんですけどね。「立川に行ってくるね」と言うくらいに、ほとんど、何ていうのかな、違うんですね。「立川市は便利だ」と言いますけれども、例えば市役所に行くにしても、立川に行くバスも減っています。

生活、市の何か管理するもの、地区の環境が、30年いて何かができたとというのが、この地区ではほとんどありません。なぜこんなにも変わらないのかということが、私ども、行政と全然つながっていないんだというふうにしかならないんです。

それで、先ほどおっしゃっていましたが、30年いますから、高齢になっています。高齢化は本当にこの地区もすごいです。確かに、西砂の若い人口とても多いんです。その中で、さっき市長さんがおっしゃっていたように、立川のこの西砂地区、行政としてはどういうまちづくりを、計画しているのかを教えてください。それについて検討することはありますが、細かいことを言うよりも、市はこう考えているんだけど、こういうのはどうかという案を、ぜひ流してほしいんです。

市はこうしているとか、こうしたとあって、さっきのバスの件も、初めて、ああ、そういう形でバスが走っているんだというのを理解したんですけども、まちづくりそのものの、この地区、立川駅の周辺と同じようには言いませんが、この地区はどのような方向でまちづくりを、考えているのかというのを知らせてもらったときに、初めてみんなが、「いや、そこはこうしてほしい」という意見が出やすいと思うんです。ということで、私は今日ここに来ました。行政を、ただ書類が必要なおきをお願いに行くだけの場所としか考えていないんです。だから、こう、つながるようにしてほしいなと思っています。

(市長)

市の西砂川のほう、いわゆる一番町から西の西砂町のまちづくりということでございますけれども、どのレベルあるいはどのような形での雰囲気のみちづくりをこうしますという方向性というのは作っておりません。これは、この地域が建物の建築などで制限がかかっているためです。

(企画政策課長)

企画政策課長の浅見です。

市長のほうから、説明があったとおり、まちづくりは常に動いているものですから、その都度、土地利用の変化とか、市の政策的な動きがあれば、皆さんの地域にはお伝えしているところです。

まちづくりでいっても、ソフト面を中心としたまちづくりとは別に、都市計画といった法的な位置づけで申しますと、こちらの北部西地域というのは、生産緑地に指定された大規模な農地が広がっております。それで、基本的には、「自然環境を大切にしたい」というところを都市計画のプランではうたっています。

当然、住環境としては低層の住居を中心とした用途が主ですので、逆に言うと、立川駅周辺にあるような高密度の商業施設や事業所は建ちにくいんです。あとは、ここ数年の土地利用の考えとしては、立川市内には駅がたくさんございます。西砂地域であれば、それぞれの駅を拠点として、日常生活をささえる機能を中心に集約型のまちづくりをすすめるというところも、大きな目的としてあります。

西砂でいえば西武立川駅、それから、上砂ですと武蔵砂川駅がございますが、そこには

コミュニティバスも発着しておりますし、これまでお話ししたように、西武立川駅につきましては、10年近く前に大々的に駅舎を改良しまして、駅前広場や商業施設も整備したといった歴史がございます。

(参加者)

でも、今の、整備されたというのは南側ですよ。北側は整備してもらった感覚はほとんど起きないと思うんです。北側は、例えば歩く道にしても、駅に行く道にしても、ほとんど整備されていないし、広場といっても、バスが回転できるぐらいの広さです。こんなこと言い切ったら悪いんですけども、どこかというぐらいの工事というか計画でしかないような、住民のメリットになっているとは思えないんですよ。

ここに一番町6丁目から歩いてきても、歩く道が全然整備されていませんから、もちろん、地主さんとの関係もあるんでしょうけども、高層のものとかそういったことではありませんが、この地区の人たちが集まれる場所、例えば、体育館みたいなものとか、図書館とかもっと広い、大きなところで、みんなが座って見られる回覧室みたいな、大きい設備が必要じゃないかなと思います。市のできることでいっぱいあるんじゃないかな。農地がいっぱいあるんだけど、公園は行って遊べるところがほとんどない。

それで、これは愚痴になるのかもしれませんが、少年野球場というところが、近くにあるんですけども、すごく管理されてとてもきれいなんですが、周りの人たちは一切入れません。11月から3月までは鍵がかかっちゃいます。最初はあそこに入って遊べたけども、今は、何々のためそれ以上は使えませんという紙が貼られて、入れない。そこは、1か月に1回以上芝刈りはちゃんとしてくれて、整備はとてもきれいにされているんですけども、見るだけですね。

そういうふうに、みんなで使える場所がないんです。自由に使える。そういうことも、こう検討しながら、お年寄りに近いところで市を見てもらいたいなど。私も77歳になって、もう動くのに大変なんだろうなってみんなが思っていますのでね。子どもたちが遊ぶところも少ないです。

(参加者)

私は錦町から参りました。私もこの地域のバス路線に関する事です。

時間がないので、簡単に申し上げますと、殿ヶ谷街道を走っている、22の2系統、七中まわりの路線バスですが、現在、平日の日中全く走っておりません。この路線バスの平日日中の復活を立川バスに働きかけていただきたい。それで、代わりといっは何ですが、大変申し訳ないんですけども、くるりんバスと補助バスの堀向線、こちらは廃止やむなしというか、廃止の方向でご検討いただきたいと思います。

なお、これらの沿線につきましては、新しい交通手段の検討を開始していただきたいと思います。1つの例としまして、朝霞市のコミュニティバス、内間木線という路線がありますが、基幹部分はこれまでどおりバスとして運行し、巡回していた部分に関しましては、無料の巡回タクシーということで分割しているんですね。

この地域に関しましても、基幹交通としては、その22の2系統、殿ヶ谷街道の路線バス七中まわりをメインとし、それらでカバーできない、今おっしゃった地域の方々につきましては、西武立川駅からこれら今までのバス停を利用していただいていた地域の方々、こういうところを、無料で、それもデマンド、つまり、電話で予約をして来ていただく、それで西武立

川駅か、もしくは松中団地の操車場、つまり立川駅へ行く路線バスに乗り継ぐ方々のための無料の交通手段、こういうものがあってもいいのかなと思っております。

以上です。

(総合政策部長)

細かなテーマで、いろいろご提案をいただきました。路線バスの数については、様々、住民の方の意見があろうと思います。ここで出たということ自体は、市のほうでも交通対策課等を通じて立川バスのほうにも申し上げますが、先ほど申し上げたとおり、立川バスも、この状況の中で、採算の取れないバスが多い中で、営業的には非常に厳しいということで、新設ということになると、それ相当のお客様が乗ってということも条件になるものです。

そこを通せば便利になる、それは確かにそうかもしれませんが、営業ベースでいくと、そういったことを考慮した中で立川バスも判断すると思います。ただ、最終的に市のほうに復活をしてくださいとご意見があったということはお伝えをします。

(参加者)

その平日日中の分の運休というのは、実はくるりんバスの運行開始からなんですよ。くるりんバスが走る前は、平日の日中に1時間に1本走っていたんです。くるりんバスの旧西ルートが運行されるようになって、それと同時に今のようなダイヤになっているんです。

ですから、くるりんバスと堀向線は止めて、その代わりにということです。それで、今、くるりんバスと堀向線を利用している地域の方々については、別の交通手段を考えたらどうでしょうかと、そういう趣旨です。

(総合政策部長)

くるりんバスも定期的に見直しを行っているところでございます。そういったときに、また市民の方からのご意見を伺う機会というのはきっと作ると思いますので、そのときに、またそういったご意見をいただければと思います。

以上でございます。

(参加者)

横田基地から補助が出ていますよね。それをほかのところに使わないで、一番迷惑している西砂に住む人たちのほうに使えないの？

(市長)

横田基地関係の騒音で迷惑かけるからということで防衛補助という補助が出ております。

(参加者)

そうですね。それでもできないんですか。西砂の今まで22本出ていたものを、少し少なくして、土日並みに出してほしい。そんなに出なくてもいいんですけど、3～4時間の間隔が空いたバスなんて、絶対利用できないですよね。

基地からそういうお金が出ているのでしたら、一番迷惑しているのはそこら辺に住んでいる方たちですよ。

(総合政策部長)

横田基地に起因する補助ということは防衛省から私ども受けておりますけれど、ただ、その対象というのは、公共施設の、例えば建替えであるとか改修であるとかということを対象にしたものです。

すみません、私どもの言い方が少し正確でなかったのですが、立川市と昭島市で堀向線の運営に関して、今までは、昭島市が238万円立川バスに拠出し、立川市から立川バスに800万円、運行のための補助金を出していたということで、それは、市の補助金を出しているということでございます。

3 閉会の挨拶

(市長)

どうも、皆さん、1時間という短い時間ということでございますが、ご協力いただきましてありがとうございました。

コロナということですから、なかなか思うような時間を取ることができません。それにいたしましても、活発なご意見、時間が大変になるぐらいの活発なご意見を頂戴して大変ありがとうございました。何らかの形で市の運営に活かしてまいりたいと考えております。

今日はどうも大変ありがとうございました。